



総研大ニューズレター

第72号 2014.5発行

●目次

【今月のトピックス】

「平成 26 年度春季入学式開催	総務課
「平成 26 年度（第 5 回）学長賞研究発表会及び授与式を開催	学務課
「平成 26 年度前学期学生セミナー開催	学融合推進センター
「総研大フレッシュマンコース開催	学融合推進センター
「永年勤続者表彰式開催	総務課
「お掃除の関さんに学長から感謝状授与	広報室
「高畑尚之先生（総研大前学長）よりお言葉」	
「総研大教員の平成 26 年度文部科学大臣表彰『科学技術賞』及び『若手科学者賞』受賞	広報室

【各種募集】

【イベント情報】

主なイベント予定

5月3日	湘南国際村フェスティバル 講演会、サイエンスカフェ、観望会
5月10日	基礎生物学専攻 大学院説明会
5月10日	生命共生体進化学専攻 大学院説明会
5月17日	遺伝学専攻 大学院説明会
5月29日	核融合科学専攻 入試説明会
5月30日～31日	生命共生体進化学専攻 オープンキャンパス
5月31日	構造分子科学専攻・機能分子科学専攻オープンキャンパス

【今月のトピックス】

● 平成 26 年度春季入学式開催



平成 26 年 4 月 7 日（月）葉山キャンパス 2 階講堂において、平成 26 年度春季入学式が行われ、76 名の入学者を迎えました。式典に先立ちピアノ演奏があり、開式の辞、役職員の紹介に続いて、入学者の名前が一人ずつ読み上げられ入学が許可されました。式典の最後には、岡田新学長より式辞があり、出席者は緊張した面持ちで聞き入っていました。



【文責 総務課】

● 平成 26 年度（第 5 回）学長賞研究発表会及び授与式を開催

平成 26 年 3 月 6 日（木）葉山キャンパス学融合推進センターにて「平成 26 年度（第 5 回）学長賞研究発表会」が開催され、各候補者による学位研究課題の発表後、ポスターボード前にて審査員を交えた活発な質疑応答が行われました。

厳正な審査の上、本年度の受賞者は最終候補者 14 名全員と決定され、平成 26 年 4 月 7 日（月）の入学式時に、岡田学長より賞状が授与されました。



受賞者一覧

【文化科学研究科】

①QIAODANJIABU（地域文化学専攻）

「中国青海省同仁県におけるチベット文化とその民族誌的研究」

②CHIU CHUN NI（比較文化学専攻）

「日本と台湾における歴史的空間・建築物の保存・活用に関する博物館学的研究」

【物理科学研究科】

③片岡 章雅（天文科学専攻）

「惑星形成初期におけるダスト進化理論の構築と観測による検証可能性」

【高エネルギー加速器科学研究科】

- ④井上 優貴 (素粒子原子核専攻)
「POLARBEAR-2 における宇宙マイクロ波背景放射偏光の精密観測」

【複合科学研究科】

- ⑤佐藤 和敏 (極域科学専攻)
「メキシコ湾流の水温分布変化が引き起こすバレンツ海の海氷減少とユーラシア大陸の寒冷化」

- ⑥鈴木 貴久 (情報学専攻)
「評判生成規範が協力関係の構築に与える影響」

- ⑦Shuyu Shi (情報学専攻)
「RF-based Passive Activity recognition」

【生命科学研究所】

- ⑧Neha MISHRA (遺伝学専攻)
「Identifying global forces of evolution in Drosophila genomes」

- ⑨豊田 賢治 (基礎生物学専攻)
「ミジンコの性決定ホルモンとしての幼若ホルモンの新規機能の解明」

- ⑩福島 健児 (基礎生物学専攻)
「食虫植物における形態的複雑化のメカニズム解明」

- ⑪田淵 紗和子 (生理科学専攻)
「オレキシン神経の時期特異的運命制御によるナルコレプシー症状発現メカニズムの解明」

- ⑫中村 佳代 (生理科学専攻)
「脳梗塞後回復期の神経回路再構築における運動の効果の解明」

- ⑬角谷 基文 (生理科学専攻)
「聞き手のポジティブな反応が話し手に与える影響の神経基盤の解明」

【先導科学研究科】

- ⑭吉田 后那 (生命共生体進化学専攻)
「ナミアゲハの生得的な色嗜好性における匂いの影響」



【文責 学務課】

● 平成 26 年度前学期学生セミナー『知らねば』開催

<日程> 2014 年 (平成 26 年) 4 月 7 日 (月) ~ 8 日 (火)

<開催場所> 葉山キャンパス

<参加者数> 学生 : 63 名 実行委員 : 20 名 教員 : 29 名

入学式の後、まだ緊張した面持ちの新入生たちが、ひとつの部屋に集められました。前のスクリーンに映し出された言葉は、「知らねば」でした。今年度の学生セミナーのテーマ

です。自分の専攻と異なる人たちのものの考え方を学ぶことで、お互いの研究を知ってもらえたらという願いを込めました。2日間にわたったそのとりくみの様子を、紹介します。

1日目、最初のセッションは「崖の上の研究者」でした。4、5人ずつのグループに分けられた新入生たちの前には、複数の色のカードが配られました。各色は「自分がなんのために研究するか」を表しています。赤は「知的好奇心」のため、緑は「社会貢献」、黄色は「金銭的利益」などです。新入生はそこから5枚を選んで、自分の中の割合に近い図を示します。グループには先生が一名ずつ入り、彼らに反論されます。新入生はディスカッションを経て、自分の図を何回か変えることもできます。初めてのセッションでしたが、どのグループも活発な議論を交わしていました。

最後に、議論の中で自分たちの意見がどう変わったのか、いくつかのグループに発表してもらいました。

「知的好奇心のために研究していたが、研究道具や施設のためにはお金が必要と説得され、バランスが必要だと思った」

「知的好奇心も大切だが、研究の中で社会貢献のチャンスが生まれたら、それを逃す手はない」などの意見が出されました。



このセッションを担当したチームは、「準備のために1年間、各専攻の先生たちにインタビューを重ねてきました。このセミナーの内容を通して、自身の研究への価値観という『崖』を超えるチャンスをつかんでももらえれば」と話していました。

交流会を挟んで、続いてのセッションは「日常と研究の神隠し」。このセッションのテーマはズバリ「議論はなぜダメになるのか?」。まず担当チームのメンバーが前に出て、あえて先に進まない議論のモデルを演じて見せます。グループ分けされた新入生たちには「なぜこの議論はダメになったのか?」考えて、今度はこの議論が上手くいくように自分たちの手で修正してもらいます。

そして各グループに、修正したディスカッションの内容を実際に演じてもらいました。



夕食後ということもあってか、終始和やかな雰囲気でもセッションは進み、「具体性がないからダメなんだよ」「問題設定を先にしなきゃ」という真剣な議論を展開したグループもいれば、ウケをねらった台本を作るグループもいました。

そうとはいえ「議論を『神隠し』のように迷い込ませるトンネルを、抜け出す方法を一緒に探したかった」と話したこのチームの意図は、どのグループにも伝わったようです。

2日目の最初のセッションのタイトルは、「ラボの宅Q便」でした。ここではまず新入生ひとりひとりに、自分の研究対象を「恋人」だと思って、ラブレターを書いてもらいました。最初はとまどっていた新入生たちも、紙とペンを手にとると、他の人とも相談しながら自身の研究に対する想いをしたためていきます。

クライマックスは部屋を暗くして、選ばれた各グループの代表者が、自作のラブレターをみんなの前で朗読しました。

一度はもらってみない(?)情熱的なラブレター、人柄がにじみ出ている誠実なラブレター、ポエムのような素敵なラブレターなど多彩な作品が披露され、会場は大いに盛り上がりました。

また最後に、先生方もラブレターを読み上げられ、新入生たちは普段は見られない先生のお茶目な姿を楽しんでいました。誰からもこのセッションを通して、充実した時間という贈り物を受けとった様子が見てとれました。



最後のセッションは「平成総研大合戦ぽんぼこ」でした。今度は専攻ごとに分かれて、お互いに異なる専攻の研究者になったつもりで、「〇〇の起源を探る」というテーマを与えられたらどんな研究をしてみたいか、考えてもらいました。本来の専攻の人たちにはそれを聞いて、実際に研究計画を立てられるか、問題設定に間違いはないかなど、発表してもらいます。

「テーマ設定が広すぎるよ」

「そもそも研究分野がウチとズレてるね」

お互いに思わぬ指摘が相次ぐ中、前日から交流を重ねてきた新入生たちの異種格闘技戦(?)は、たびたび笑いも起きる打ち解けた様子で、幕を閉じました。

ところで、各セッションのタイトルを見て、何か気がつきませんでしたか?

そうです。どれも、ジブリ映画の題名をもじってつけたものなんです。スタジオジブリの宮崎駿監督は、こんなことをいっています。

—半径3m以内に、大切なものはぜんぶある。

新入生は、これから長い研究の道のりを歩いていくことでしょう。だけど、学生セミナーを終えたひとりひとりの「半径3m」には、2日間共に支え合ってきた仲間たちの笑顔がありました。

最後になりましたが、今年度の学生セミナーの企画運営、及び当日の進行にあたって、先生方及び総研大事務の皆様方にはひとかたならぬご支援をいただきました。この場を借りて、改めて厚く感謝申し上げます。そして一年間、時に励まし合い、時にぶつかり合いながら、共にこのセミナーを作り上げていった実行委員の皆さんにも、お礼申し上げます。皆さんと過ごした日々は、何度も繰り返し観たくなる映画のように、心の中に刻まれています。本当にありがとうございました。

次回の学生セミナーの成功を、心よりお祈りいたします。



● フレッシュマンウィーク開催



入学式、引き続いての学生セミナーを終えて、4月8日の午後、56名の新入生が学融合推進センター1階の広間に集まりました。まず、平田センター長から、本プログラムの趣旨が新入生間の横のつながりを促進することにある説明がありました。その後引き続いて、総研大ガイダンスが副センター長の颯田により行われた。総研大の3つの教育目標、「高い専門性・広い視野・国際通用性」の中でも、特に広い視野を涵養し、また学生間の横のつながりを促進するために本学が提供している様々な教育プログラム、特にこの「フ

レッシュマンコース」をふくむ「学長イニシアティブ」プログラムの内容についての説明がありました。また学費支援や海外派遣事業などの学生の活動を支援するプログラムについても説明がありました。更にそれに引き続き、大田情報基盤センター長より、総研大でのメールや遠隔地配信授業についての特色の説明、柳生図書館副館長からは、特に図書館の電子ジャーナルの使い方についての説明がありました。ガイダンスの後は、「学長との懇談会」が開催されました。学長のみならず、長谷川副学長、永山理事のお二人にも加わっていただき、学生からの研究者としての生き方に関するさまざまな質問に答えていただきました。懇談会の後は、立食形式の夕食懇談へと引き継がれた。学長をはじめとして、副学長、理事の他に、センターの教員も参加しての歓談となりました。

翌日の4月9日は、会場を共通棟2階の講義室へ移して特別講義が行われました。第1限は、「科学と社会 1: 科学と科学観の変遷」について長谷川副学長が講演された。2000年余におよぶ科学の歴史を90分で駆け抜けた講義でしたが、科学の発展の歴史を文化や社会の観点から時代区分し、各時代での科学のあり方、捉え方の違いが鮮明に語られました。第2限は「科学と社会 2- 科学倫理」についてこの3月末に総研大を退職された、池内前理事にお話をいただきました。社会的にも研究の不正に対する注意が集まっているなかでの研究者の持つべき倫理の基本について様々な例を示しながらのわかりやすい講義でした。

第3限には、長谷川副学長による「科学と社会 3: 科学を取り巻く世界」という日本の科学を支えている社会の仕組みについての講義だった。第4限は桂遺伝学専攻長による「研究者入門」についてでした。「研究者とは」、「研究者となる心構えとは」、など新入生にとって最も身近な課題を扱った講演だった。最後の第5限は「ITリテラシー概論」でした。コンピューターで扱われる情報とはという基礎から、オンラインのセキュリティに関する実践的な話題まで、ひろくITに関わるリテラシーが講述されました。各講義のあとの質偽応答も活発に行われました。



最終日の4月10日には、各研究科にわかれてオリエンテーション講義が行われた。研究科ごとに、研究科の紹介や、研究科での最先端の研究の紹介など研究科の特色を生かしたプログラムとなりました。今後の講義の序論や討論会を開催した研究

科もありました。この日、昼食後にアンケートを記入して、そのあと閉講式がありました。閉講式では桑島教授から学生セミナー・フレッシュマンコースで築いた学生間のつながりを今後も、もち続けてもらいたいという挨拶がありました。

4月7日から始まった3泊4日のフレッシュマンウィークが終わりました。新入生それぞれが研究拠点となる基盤機関でこれからの生活が充実した実り多いものとなることを祈りつつ、総研大を離れていく彼らを見送りました。



【文責 学融合推進センター 教授 颯田葉子】

● 永年勤続者表彰式開催



平成 26 年 3 月 27 日（木）葉山キャンパス学長室において、永年勤続者表彰式が行われました。受章者は三十年の永年勤続者：5 名、二十年の永年勤続者：2 名の計 7 名。表彰式では、高畑学長より受章者一人ひとりに長い間の勤続に対してねぎらいと感謝の意を示すとともに、さらなる飛躍を願って表彰状が授与されました。



【文責 総務課】

● お掃除の関さんに学長から感謝状が授与されました



平成 9 年 7 月から、本学の環境美化のためにたいへんご尽力いただいておりますお掃除の関ミサヲさんに、高畑学長から感謝状が授与されました。

授与式は 3 月 27 日、葉山キャンパス教職員の永年勤続者表彰式に先立ち、学長室で執り行われました。関さんは学長室に入室したとき、執行部の面々の中で、たいへん緊張してしまい、足が動かなかったとおっしゃっておられました。

関さんは毎日朝早くから出勤され、お掃除の他に校内の至る所に置いてある関さん愛育のお花などの手入れに加え、校外の植木の世話や雑草の駆除など、本当に総研大のために働いていただいております。また、以前、所属する会社から別の会社に大学の契約が変更になった折には、総研大で働きたいという思いから、会社を替えたということがあったそうです。

感謝状は、そういった関さんの総研大を愛する思いと長い間の献身的な活動に、学長のみならず葉山キャンパス教職員、学生の気持ちを学長がお伝えいただいたものと思っております。

関さん、本当におめでとうございます。また、ありがとうございました。これからも長きにわたり本学の環境美化のためにご協力いただけますよう、よろしく願いいたします。



【文責 広報室】

● 高畑尚之先生（総研大前学長）よりメッセージ「高い専門性と広い視野」



矛盾することではないが、共にはなかなか達成しがたいことである。いうまでもなく総研大創設以来のモットーであり、国立大学の法人化以降の中期目標・計画の柱である。中期目標・計画には国際的な通用性も盛り込まれているが、これは高い専門性と広い視野が基礎にあってはじめて達成できるものであり、外国語の能力やコミュニケーション能力を単独に取り上げているわけではない。むしろ、国際会議などの少しくだけた時間帯における議論に必要となる知識や能力のことである。私自身の経験では、それは高い専門性ととも専門外の知識や自国の文化・歴史に対するきちんとした理解であった。やや高度な一般教養といってもよ

い。

総研大の教育研究に長年携わってきたためか、いまでも創設のモットーに対する余韻と想いが残る。高い専門性に比べると、広い視野とは曖昧な言葉である。私自身は他分野の基礎的な知識を深く理解し、それを新しく結合する能力、はやり言葉で言えばイノベーションにつながる能力のことと理解している。ともあれ、異分野の結合については学長イニシャティブ事業であるフォーラムで3年間にわたって議論してきたし、専門性と視野の広さに関しては入学式や学位記授与式で繰り返し述べてきた。このことに関係して忘れられない人々は、デカルト、漱石、ヴェーバー、ポラニー、ドラッカー、ハイエクあるいはヘッセである。彼らの言葉は正鵠を射ているばかりか、今日的ですらある。例えば、科学論文の捏造や改竄が絶えない昨今故に、自然科学の本質と科学者としての基本的な心構えを説いた「方法序説」をもう一度吟味してみてもはどうだろう。また、第一次大戦後のドイツで、浮き足立った青年たちに向けて行われた講演「職業としての学問」に想いを馳せることも有益ではないか。専門化する学問とそのような学問に生きるものの心構えが明確に記されているからである。

学問の専門化、細分化は避けられないことだが、従事者が同じように狭く細くなってよいわけではない。そうなるのは一粒一粒に孤立した、乾涸びた糶のようなものだと諭した講演「道楽と職業」が私は好きである。この講演が行われたのは明治44年、第一次大戦の3年前のことだった。日本でも道楽を職業とする専門家がすでに誕生していたことは「三四郎」からもわかる。いずれにしても、高い専門性はコトを成す上での必要条件である。しかし、知識の生産性や社会的共同生活というもっと広い観点からいえば十分条件にはなっていない。その上、各専門分野では10年も同じパラダイムが続くことは珍しくなっている。それほどまでに各学問分野の発展のスピードは著しい。新しいパラダイムの展開には、新しい視点やこれまでとは異なる知識の新結合が必要である。これこそが本来の意味のイノベーションである。そのためには、大学院のできるだけ早い時期までに幅広い分野の基礎的な知識を深く修得しておくこと、そうでなくともそうなるべき習慣を身につけておくことが欠かせないのではないか。

このような想いは、実は去る3月の式辞で引用したヘッセの言葉に尽きているので、ここにその再録をお許し願いたい。「どのカスターリエンの研究所も、どのカスターリエン人も、ただ二つの目標と理想を知っていなければならない。すなわち、自分の専門をできるだけ完全に成し遂げることと、その専門を絶えずほかの分野と結びつけ、すべての分野と親密な関係を保つことにより、専門と自分自身を生き生きとした、弾力のあるものに維持することである。」私にとって、ヘッセが描いた理想郷カスターリエンとは総研大のことに他ならない。

【文責 高畑尚之】

● 総研大教員の平成26年度文部科学大臣表彰科学技術賞及び若手科学者賞受賞



このたび、総研大教員等8名が、科学技術分野で顕著な

功績があったとして、科学技術分野の文部科学大臣表彰を受賞しました。

科学技術分野の文部科学大臣表彰では、「科学技術賞」として「開発部門」、「研究部門」、「理解増進部門」などいくつかの部門に分かれて表彰されています。文部科学省より発表された今年度の受賞者に、日ごろの研究活動、研究成果を認められた総研大関係者5名が含まれています。

また、萌芽的な研究、独自の視点に立った研究等、高度な研究開発能力を示す顕著な研究業績をあげた若手研究者

を対象とした「若手科学者賞」を3名の総研大教員が受賞しました。

本賞を受賞した総研大関係者は以下のとおりです。

尚、表彰式は、4月15日（火）文部科学省3階講堂にて行われます。



【極域科学専攻 堤雅基准教授】



【生理科学専攻 岡本秀彦准教授】
【生理科学専攻 和氣弘明准教授】



【核融合科学専攻 金子修教授】
【核融合科学専攻 竹入康彦教授】
【核融合科学研究所 長壁正樹教授】

平成 26 年度科学技術分野の文部科学大臣表彰

○科学技術賞

・開発部門

堤雅基 極域科学専攻 准教授 (国立極地研究所 准教授)

・研究部門

魚住泰広 機能分子科学専攻 専攻長 (分子科学研究所 教授)

金子修 核融合科学専攻 教授 (核融合科学研究所 教授・副所長)

竹入康彦 核融合科学専攻 教授 (核融合科学研究所 教授)

長壁正樹 総研大数物科学研究科修了生 (核融合科学研究所 教授)

○若手科学者賞

岡本秀彦 生理科学専攻 准教授

山岸順一 情報学専攻 准教授

和氣弘明 生理科学専攻 准教授



【情報学専攻 山岸順一准教授】

【文責 広報室】

【教員・学生の受賞情報等】

○複合科学研究所 情報学専攻 井上克巳 教授 他

日本ソフトウェア科学会「第3回ソフトウェア論文賞」受賞

○情報研シリーズ (丸善ライブラリー) 新刊

情報研シリーズは、国立情報学研究所の研究内容の中から、身近な話題を取り上げ、一般にも分かりやすく紹介、解説した一読の価値ある書籍 (新書) です。

「量子元年、進化する通信」

著者：

・根本 香絵：

国立情報学研究所 情報学プリンシプル研究系 教授

・佐々木 雅英：

(独) 情報通信研究機構 未来 ICT 研究所 量子 ICT 研究室 室長

・池谷 瑠絵：

大学共同利用機関法人 情報・システム研究機構 URA、

サイエンスコミュニケーター

情報研シリーズ <http://www.nii.ac.jp/about/publication/jouhouken-series/>

【各種募集】 現在公募中の情報

応募期間	イベント名称・提出先	参考URL
平成26年6月30日(月)必着 (研究集会第2回)	平成26年度国立天文台共同開発研究等 国立天文台研究支援係	http://jouhoukoukai.nao.ac.jp/kouryuu/koubo/kyodokaiatsu/index.html

【イベント情報】

●総研大の行事

5月

開催日	時間帯	イベント名称・開催場所	参考URL
3日(土)		湘南国際村フェスティバル 講演会・サイエンス カフェ・観望会 葉山キャンパス	http://www.soken.ac.jp/event/20140503/
10日(土)	13:00-	基礎生物学専攻 大学院説明会(秋葉原UDXカンファレンス)	http://www.nibb.ac.jp/graduate/index.html
10日(土)	13:00-17:00	生命共生体進化学専攻 説明会 秋葉原UDX カンファレンス	http://www.esb.soken.ac.jp/admissions/open_campus/20140510.html
17日(土)	13:00-17:30	遺伝学専攻 大学院説明会 国立遺伝学研究所	http://www.nig-daigakuin.jp/
29日(木)	13:30-17:00	核融合科学専攻入試説明会 核融合科学研究所	http://soken.nifs.ac.jp/setsumeikai/setsumeikai-nifs26.html
29日(木)- 31日(土)		宇宙科学専攻体験入学	http://www.isas.jaxa.jp/sokendai/examination/taiken_2014.shtml
30日(金)- 31日(土)		生命共生体進化学専攻オープンキャンパス 葉山キャンパス	http://www.esb.soken.ac.jp/admissions/open_campus/20140530.html
31日(土)	12:45-17:00	構造分子科学専攻・機能分子科学専攻 オープンキャンパス 自然科学研究機構 岡崎コンファレンスセンター 中会議室(愛知県岡崎市)	http://www.ims.ac.jp/education/opencampus.html
31日(土)	14:00-	宇宙科学専攻説明会	

6月

開催日	時間帯	イベント名称・開催場所	参考URL
13日(金)		統計数理科学専攻 大学院説明会 統計数理研究所	
21日(土)	13:00-16:30	高エネルギー加速器科学研究科大学院説明会 日本教育会館 9F 第五会議室	

●基盤機関の行事

5月

開催日	時間帯	イベント名称・開催場所	参考URL
2月9日(日)- 6月19日(月)	10:00-18:00	「イメージのカー国立民族学博物館コレクション にさぐる」(国立新美術館/東京)(閉幕) 国立民族学博物館	http://www.minpaku.ac.jp/museum/exhibition/thematic/powerofimg20140219/index
3月11日(火)- 5月6日(火)		歴史にみる震災 国立歴史民俗博物館	http://www.rekihaku.ac.jp/exhibitions/project/index.html
4月1日(火)- 9月中旬	10:00-16:30 ※入場は16時まで	常設展示「和書のさまざま」 国文学研究資料館	http://www.nijl.ac.jp/pages/event/exhibition/2014/zyousetsu.html
4月15日(火)- 5 月6日(火)		伝統の桜草 国立歴史民俗博物館・くらしの植物苑	http://www.rekihaku.ac.jp/exhibitions/project/plant_now.html
3日(土)	10:00-17:00	Fusionフェスタ in Tokyo 2014 核融合! 未来を創るエネルギー 日本科学未来館	http://www.nifs.ac.jp/welcome/tokyo2014/index.html
3日(土)	13:30-15:30	第21回「現代の葬送儀礼」 国立歴史民俗博物館・歴博講堂	http://www.rekihaku.ac.jp/events/movie/index.html
4日(日)	14:30-15:30	みんなくウィークエンド・サロンー 研究者と話そう 第343回 国立民族学博物館・展示場	http://www.minpaku.ac.jp/museum/event/salon

6日(火・振休)	13:30-16:30	みんなく映画会「台湾映画鑑賞会 映画から台湾を知る」 『超級大国民(原題:超級大國民)』 国立民族学博物館・講堂	http://www.minpaku.ac.jp/museum/event/fs/movies140429taiwan
10日(土)	13:00-15:00	第365回「消費文化のなかの節供行事」 国立歴史民俗博物館・歴博講堂	http://www.rekihaku.ac.jp/events/lecture/index.html
11日(日)	14:30-15:30	みんなくウィークエンド・サロンー 研究者と話そう 第344回 国立民族学博物館・展示場	http://www.minpaku.ac.jp/museum/event/salon
15日(木)-8月5日(火)	10:00-17:00	企画展「みんなくおもちゃ博覧会ー大阪府指定有形民俗文化財『時代玩具コレクション』」 国立民族学博物館・企画展示場	
17日(土)	13:30-15:00	みんなくゼミナール「多みんぞくニホンのいまー特別展から10年」 国立民族学博物館・講堂	http://www.minpaku.ac.jp/museum/event/seminar/
18日(日)	14:30-15:30	みんなくウィークエンド・サロンー 研究者と話そう 第345回 国立民族学博物館・展示場	http://www.minpaku.ac.jp/museum/event/salon
24日(土)	13:30-15:30	第182回「里山の植物利用-食べ物-」 国立歴史民俗博物館・くらしの植物苑	https://www.rekihaku.ac.jp/exhibitions/plant/observation/index.html
25日(日)	14:30-15:30	みんなくウィークエンド・サロンー 研究者と話そう 第346回 国立民族学博物館・展示場	http://www.minpaku.ac.jp/museum/event/salon
30日(金)-31日(土)	11:00-18:00 11:00-17:00	国立情報学研究所 オープンハウス	http://www.nii.ac.jp/event/openhouse/
30日(金)-31日(土)	14:00-18:10 9:00-11:55	分子科学研究所シンポジウム 自然科学研究機構 岡崎コンファレンスセンター中会議室(愛知県岡崎市)	http://www.ims.ac.jp/education/opencampus.html
31日(土)	13:00-16:30	みんなくワールドシネマ「マイネーム・イズ・ハー」 国立民族学博物館・講堂	http://www.minpaku.ac.jp/museum/event/fs/movies1405
31日(土)	13:00-17:15	公開フォーラム「世界の博物館2014」 国立民族学博物館・第5セミナー室	http://www.minpaku.ac.jp/research/activity/news/rm/museology140531

6月

開催日	時間帯	イベント名称・開催場所	参考URL
1日(日)	14:30-15:30	みんなくウィークエンド・サロンー 研究者と話そう 第347回 国立民族学博物館・展示場	http://www.minpaku.ac.jp/museum/event/salon
8日(日)	14:30-15:30	みんなくウィークエンド・サロンー 研究者と話そう 第348回 国立民族学博物館・展示場	http://www.minpaku.ac.jp/museum/event/salon
8日(日)	13:30-16:30	みんなく映画会「台湾映画鑑賞会 映画から台湾を知る」 『童年往事 時の流れ(原題:童年往事)』	http://www.minpaku.ac.jp/museum/event/fs/movies140608taiwan
14日(土)	13:00-15:00	第366回「帝都の軍隊」 国立歴史民俗博物館・歴博講堂	https://www.rekihaku.ac.jp/events/lecture/index.html#no366
14日(土)	13:30-16:30	みんなく映画会「台湾映画鑑賞会 映画から台湾を知る」 『海角七号 君想う、国境の南(原題:海角七號)』 国立民族学博物館・講堂	http://www.minpaku.ac.jp/museum/event/fs/movies140614taiwan
15日(日)	14:30-15:30	みんなくウィークエンド・サロンー 研究者と話そう 第349回 国立民族学博物館・展示場	http://www.minpaku.ac.jp/museum/event/salon
21日(土)	10:30-17:00	歴博映像フォーラム9「日本各地の盆行事と葬送墓制の最近の変化」新宿明治安田生命ホール	https://www.rekihaku.ac.jp/events/forum/index.html
21日(土)	13:30-15:00	みんなくゼミナール「現在進行形の海外移民ー韓国を去りゆく人びとの胸のうち」 国立民族学博物館・講堂	http://www.minpaku.ac.jp/museum/event/seminar
22日(日)	10:30-16:30	音楽の祭日2014 in みんなく 国立民族学博物館・特別展示館1F等	http://www.minpaku.ac.jp/museum/event/fetedelamusique/2014/index
28日(土)	13:30-15:30	第183回「梅雨を彩る華花」 国立歴史民俗博物館・くらしの植物苑	
29日(日)	14:30-15:30	みんなくウィークエンド・サロンー 研究者と話そう 第350回 国立民族学博物館・展示場	http://www.minpaku.ac.jp/museum/event/salon

【編集後記】



総研大ニューズレター72号をお届けします。

4月7日（月）に入学式が開催され、引き続き10日まで総研大フレッシュマンウィークが開催されました。特に、総合教育科目「総研大フレッシュマン・コース」につきましては、今年度初めての試みでしたが、新入生の皆さんは熱心に受講され、それぞれの専攻へ出発されました。

私は広報室カメラマンとして、各プログラムを見て回りました。印象に残ったのは、天文科学専攻の柏川准教授による、「天文分野の現状と30m望遠鏡などの将来計画」の

講演において、すばる望遠鏡の魅力が素人の私でも伝わる説明をされていたことです。また、文化科学研究科は、4名の生徒とゼミ方式で稲賀教授と白熱した講義が行われていました。

総研大は分散している大学のため、学生の皆さんが一堂に集まる機会は余りありませんが、総研大フレッシュマンウィークなどの専攻横断型の交流事業を通して、専攻間の学生交流が深められ、近い将来、新たな学問分野が芽生えることを期待しております。



【天文科学専攻 柏川准教授の講義】



【文化科学研究科 オリエンテーション講義】



【4月10日は晴天に恵まれ、外でお弁当を食べる学生】



【チャーターバスで各基盤に向かう学生の見送り】

広報室 T.W

◎各専攻で教員や学生がメディアに出演が決まっている場合や、受賞や表彰等があった際にはご連絡ください。またメディア等に出演される場合は、可能な限り「総合研究大学院大学」と標記していただけますようご協力お願いします。

発行 2014年5月7日

編集



国立大学法人
総合研究大学院大学
THE GRADUATE UNIVERSITY FOR ADVANCED STUDIES

広報委員会

神奈川県三浦郡葉山町（湘南国際村）

広報室（担当）

TEL046-858-1500/FAX046-858-1542

©2014 SOKENDAI